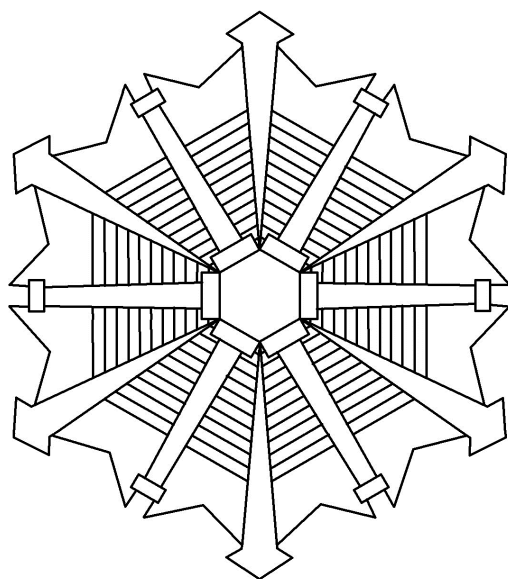


消防現況

平成 30 年版



久万高原町消防本部

= 目 次 =

◇ 火災編 1

◇ 救急編 7

◇ 救助編 27

◇ 予防編 31



火 災 編



無防備な 心に火災が かくれんぼ

久万高原町内の火災の実態

1. 火災の状況

(1) 地区別火災発生状況…美川地区を除く3地区で火災が発生

第1表 地区別火災発生状況

(各年中)

区分		久万高原町								合 計	
		久万地区		面河地区		美川地区		柳谷地区			
		単位	平成29年	平成30年	平成29年	平成30年	平成29年	平成30年	平成29年	平成30年	平成29年
出火件数		-	4	2	1	2	-	1	1	5	6
建物	件	-	1	1	1	2	-	1	1	4	3
林野		-	1	1	-	-	-	-	-	1	1
車両		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他		-	2	-	-	-	-	-	-	-	2
損害額		-	377	3,522	1,164	1,396	-	5,459	943	10,377	2,484
建物	千円	-	46	3,521	1,164	1,396	-	5,459	943	10,376	2,153
林野		-	5	1	-	-	-	-	-	1	5
車両		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他		-	326	-	-	-	-	-	-	-	326
焼損棟数	棟	-	1	5	1	6	-	2	3	13	5
り災世帯数	世帯	-	-	1	1	2	-	-	1	3	2
り災人員	人	-	-	3	1	4	-	-	1	7	2
死者	人	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-
負傷者		-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
出火率	件	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8	7.0

(注) 出火率を求めた人口は、平成30年4月1日現在の住民基本台帳による。

※久万高原町人口：8,537人

※出火率・・・人口1万人あたりの火災件数の割合

(2) 出火率…久万高原町では7.0件

消防白書の出火率を都道府県別にみると、全国平均は2.9件となっている。

愛媛県は35番目に低い2.7件となっており、最も高いのは山梨県の4.0件である。

一方、最も低いのは、富山県の1.8件であった。

(3) 四季別の火災発生状況…春季に3件発生

第2表 四季別火災発生状況

(各年中)

年 別 季 別	平成 29 年			平成 30 年		
	出火件数 (件)	構成比 (%)	損害額 (千円)	出火件数 (件)	構成比 (%)	損害額 (千円)
春季(3月～5月)	2	40.0	3,522	3	50.0	377
夏季(6月～8月)	0	0.0	0	2	33.3	2,107
秋季(9月～11月)	0	0.0	0	1	16.7	0
冬季(12月～2月)	3	60.0	6,855	0	0.0	0
合 計	5	100.0	10,377	6	100.0	2,484

(4) 建物焼損面積…焼損床面積は昨年より54.5%減少

第3表 焼損床面積・表面積

(平成30年中)

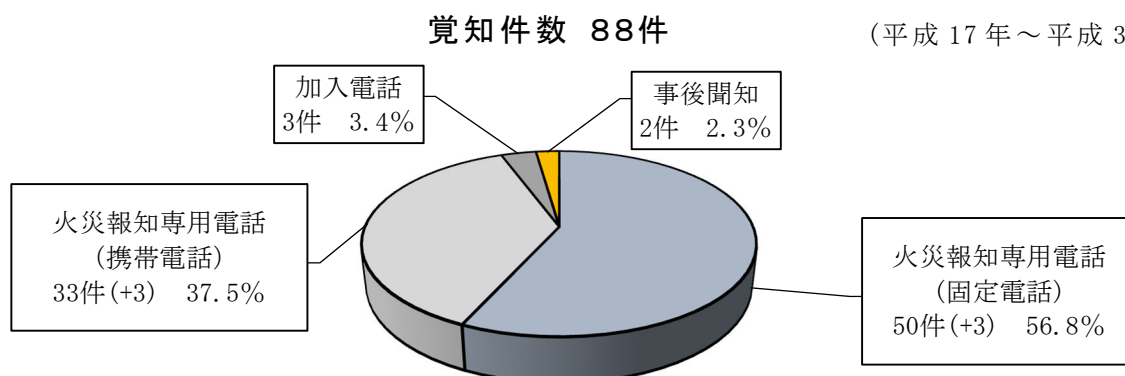
月 日	地 区	出火元の用途	焼損棟数	焼損程度	焼損床面積	焼損表面積
5月 18日	久万	倉庫	1棟	全焼	145 m ²	0 m ²
7月 12日	面河	住宅	1棟	全焼	63 m ²	0 m ²
7月 28日	柳谷	住宅	3棟	半焼	113 m ²	6 m ²

(5) 覚知と通報…約6割が固定電話からの通報

平成30年中の火災件数、6件の内3件は携帯電話からの通報であった。

第1図 覚知方法別出火件数

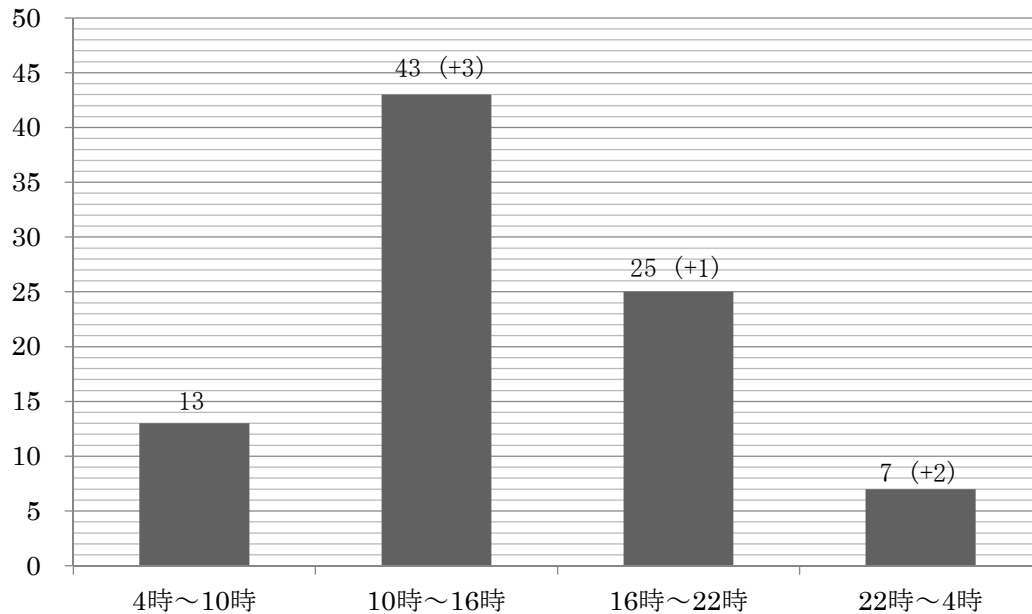
(平成17年～平成30年)



(6) 時間帯別の火災発生状況…半数が昼間 10 時～16 時に発生

第 2 図 時間帯別火災発生状況

(平成 17 年～平成 30 年)



2. 損害額…損害額は減少

消防白書によると全国の火災による損害額は 752 億円で、火災 1 件当たりでは 204 万円となっている。なお、火災種別ごとの損害額は建物火災によるもので、全体の 91.6%を占めている。

平成 30 年中の久万高原町の火災による損害額は 2,484 千円となっている。そのうち建物火災の損害額が 2,153 千円、林野火災、その他火災による損害額は 331 千円であり、建物火災による損害額が全体の 87%を占めている。また、平成 29 年中の損害額は 10,377 千円で、前年に比べ約 76%の減少となっている。

3. 火災による死傷者の状況…負傷者 1 名発生

建物火災における初期消火活動中に、負傷者が 1 名（軽傷）発生している。

4. 初期消火…平成 30 年中の初期消火実施率 33.3%

平成 30 年中における初期消火の実施状況をみると、6 件中 2 件が初期消火を実施している。初期消火方法においては、水道水、水バケツとなっている。

5. 出火原因…大半は消火不十分

第4表 火災別発火源・経過・着火物

(平成30年中)

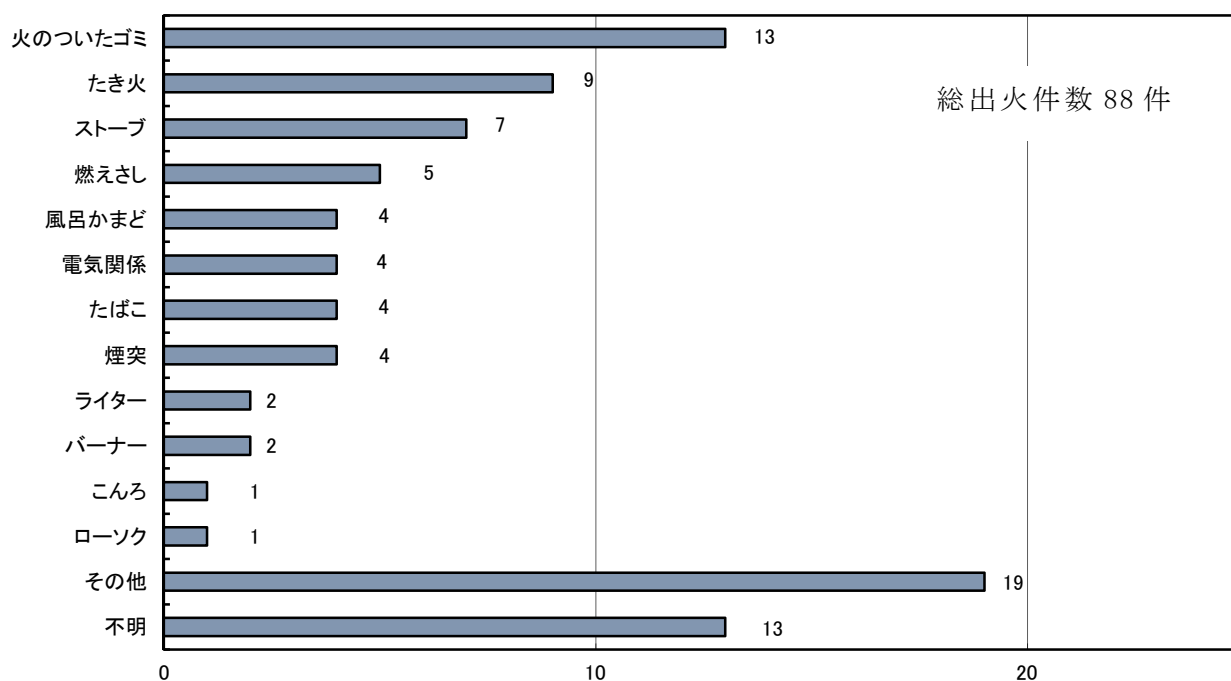
火災種別	月日	発火源	経過	着火物
その他	3月13日	枯れ草焼き	残り火の処置が不十分	枯草
林野	3月28日	枯れ草焼き	消したはずのものが再燃	枯草(生えたまま枯れたもの)
建物	5月18日	取灰	再燃	落葉
建物	7月12日	炭火	火源が転倒、落下する	板張
建物	7月28日	不明	不明	不明
その他	11月8日	枯れ草焼き	火源が動いて接触する	枯草

過去14年間（88件）についてみると、火のついたゴミによる出火が13件（14.7%）と最も多く、次いでたき火が9件（11.0%）、ストーブ7件（8.5%）の順となっている。

今年の出火原因を見てみると、火のついたゴミによる出火原因が（集め焼きの際に消火不十分な状態なゴミが周囲へ燃え移ったり、風に煽られて燃え移った）3件、燃えさしによる出火原因が2件、不明は1件であった。（第3図参照）

第3図 出火原因別の火災件数

(平成17年～平成30年)



平成30年 火災一覧表

火災番号	出火月日	火災種別	出火場所	出火時刻	覚知時刻	鎮火時刻	天候	風速	湿度	火元用途	構造燃焼物	焼損棟数				り災		死傷者		焼 損 面 積			損 害 額 (千円)	出 火 原 因
												全焼	半焼	部分焼	ぼや	世帯員	死 者	負 傷 者	床面積 (㎡)	表面積 (㎡)	林 野 (a)			
1	3/13	その他	久万高原町下畑野川	11:00	15:50	16:10	晴れ	1.1	69%	農地	—	1									25	326	農地内で消火不十分の集め焼きが再燃して周囲の枯草に燃え移り出火したもの。	
2	3/28	林野	久万高原町直瀬	14:30	14:47	15:20	晴れ	2	63%	田	—										3	5	農地内で消火不十分の集め焼きが再燃して周囲の枯草に燃え移り出火したもの。	
3	5/18	建物	久万高原町直瀬	19:50	20:53	21:30	雨	0.6	91.60%	倉庫	—	1							145			46	枯草を焼却した灰の再燃	
4	7/12	建物	久万高原町苅草	1:50	2:11	3:50	曇り	1.1	76%	住宅	—	1				1	1		63			1,164	火挟みで挟んだ炭火の火種が、板張に着火し、無炎燃焼を継続した後、出火したもの。	
5	7/28	建物	久万高原町柳井川	0:00	0:28	2:00	曇り	0.6	82.50%	住宅	—	1	1	1		1	1	1	113	6		943	不明	
6	11/8	その他	久万高原町東明神	13:50	13:54	14:25	晴れ	3.4	57.40%	田	—										1	0	休耕田の刈草を焼却中、炎が風に煽られ、土羽の枯草に燃え移り延焼したもの。	
合 計												4	1	1	0	2	2	0	1	321	6	29	2,484	

※焼損程度解説

・全焼

建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の70パーセント以上のもの又はこれ未満であっても残存部分に補修を加えて再使用できないものをいう。

・半焼

建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の20パーセント以上のもので全焼に該当しないものをいう。

・部分焼

建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の20パーセント未満のものでぼやに該当しないものをいう。

・ぼや

建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の10パーセント未満であり焼損床面積が1平方メートル未満のもの、建物の焼き損害額が火災前の評価額の10パーセント未満であり

焼損表面積が1平方メートル未満のもの、又は収容物のみ焼損したものをいう。

地区別火災発生一覽表

(平成17年～平成30年)

区分 地区	出 火 件 数				焼 損 面 積			焼 損 棟 数	り 災		死 傷 者		損 害 額
	統計	建物	林野	他	床面積 (㎡)	表面積 (㎡)	林野 (a)		世帯	人員	死者	傷者	千 円
久 万 地 区	50	29	11	10	1,492	194	120	36	14	25	-	1	41,733
東 明 神	4	2	-	2	50	-	13	2	-	-	-	-	650
西 明 神	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
入 野	4	3	-	1	199	-	8	3	2	2	-	-	2,878
久 万	7	7	-	-	243	7	-	8	8	13	-	-	5,761
野 尻	6	4	-	2	1	101	-	4	-	-	-	-	3,418
菅 生	6	3	2	1	165	34	33	5	1	3	-	-	10,089
上 畑 野 川	4	1	3	-	112	-	12	1	-	-	-	-	1,382
下 畑 野 川	3	-	1	2	-	-	42	-	-	-	-	-	595
直 瀬	7	3	3	1	192	10	6	4	-	-	-	1	884
父 野 川	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
露 峰	4	2	1	1	164	-	-	2	1	4	-	-	7,127
二 名	5	4	1	-	366	42	6	7	2	3	-	-	8,949
面 河 地 区	6	4	1	1	785	128	1	14	4	8	1	1	14,100
相 の 木	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	803
笠 方	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
前 組	1	1	-	-	294	-	-	5	1	3	1	-	3,521
洪 草 ・ 大 成	3	3	-	-	491	128	-	9	3	5	-	1	9,775
中 組 ・ 本 組	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
若 山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美 川 地 区	22	18	3	1	1,535	97	194	36	13	29	1	-	36,027
有 枝	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大 川	2	2	-	-	145	32	-	3	1	3	-	-	1,991
上 黒 岩	3	2	1	-	4	-	-	2	-	-	-	-	439
中 黒 岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沢 渡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日 野 浦	5	4	1	-	359	11	8	9	3	5	1	-	9,280
仕 出	1	1	-	-	30	17	-	3	-	-	-	-	652
七 鳥	5	4	-	1	228	23	-	5	3	9	-	-	5,542
東 川	4	4	-	-	510	14	-	10	5	10	-	-	13,151
黒 藤 川	2	1	1	-	259	-	186	4	1	2	-	-	4,972
柳 谷 地 区	10	9	1	-	1,257	100	10	23	7	12	-	2	19,989
柳 井 川	5	4	1	-	387	59	4	6	3	5	-	2	6,291
西 谷	4	4	-	-	783	41	6	14	4	7	-	-	12,845
中 津	1	1	-	-	87	-	-	3	-	-	-	-	853
久万高原町	88	60	16	12	5,069	519	325	109	38	74	2	4	111,849

救 急 編



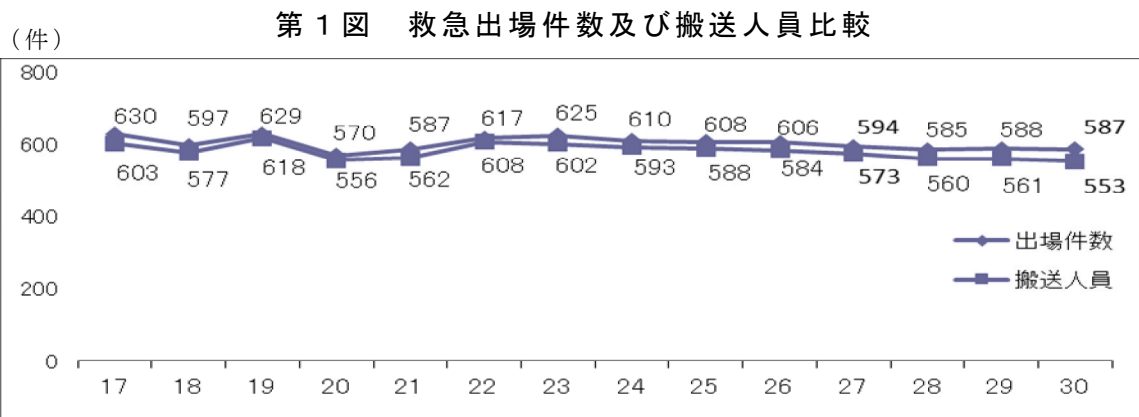
一人でも多くの人を救いたい

1 救急業務の実施状況

1. 救急出場件数および搬送人員…町民 15 人に 1 人を搬送

平成 30 年中における久万高原町の救急業務実施状況は、救急出場件数 587 件で前年比 1 件（0.2%）の減少、搬送人員は 553 人で前年比 8 人（1.4%）の減少となっており、不搬送件数は 38 件で前年比 6 件の増加となっている。

また、救急自動車の 1 日平均出場件数は 1.61 件（前年 1.61 件）となっており、町民（平成 30 年 4 月 1 日現在の人口 8,457 人）15 人（前年 15 人）に 1 人が救急隊によって搬送されたこととなる。（第 1 図参照）



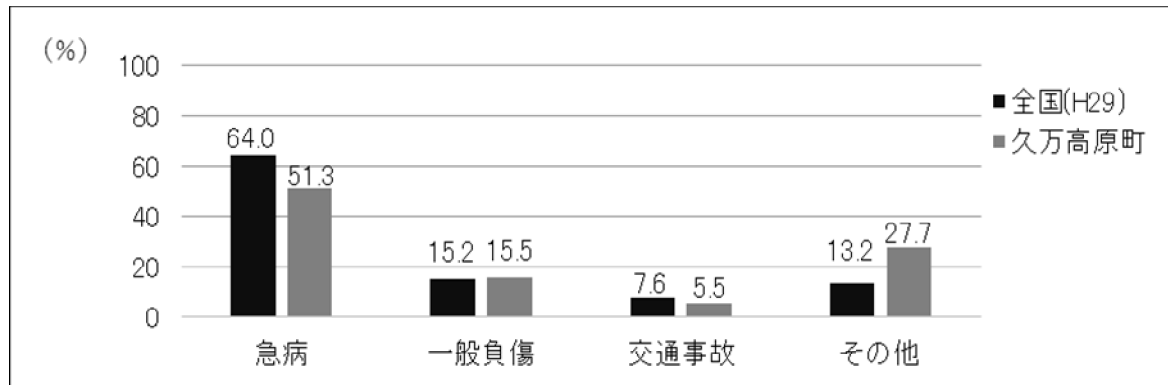
※平成 17 年以降の久万高原町の統計 (年)

2. 事故種別救急出場件数および搬送人員

第 1 表 年別救急活動の推移

年	救急出場件数		搬 送 人 員		事 故 種 別 発 生 件 数				
	件数	対前年増減率	人員	対前年増減率	急病	交通	一般負傷	転院	その他
17	630	▲17.2	603	▲16.1	262	52	94	201	21
18	597	▲5.2	577	▲4.3	251	28	83	218	17
19	629	5.3	618	7.1	266	45	81	214	23
20	570	▲9.4	556	▲10.0	262	41	81	166	20
21	587	2.9	562	1.1	287	29	81	170	20
22	617	5.1	608	8.2	273	31	99	196	18
23	625	1.3	602	▲1.0	278	27	96	202	22
24	610	▲2.4	593	▲1.5	282	26	86	193	23
25	608	▲0.3	588	▲0.9	280	27	86	195	20
26	606	▲0.2	584	▲0.7	247	44	101	194	20
27	594	▲2.1	573	▲1.9	283	36	89	164	22
28	585	▲1.5	560	▲2.3	294	33	82	165	11
29	588	0.5	561	0.2	283	38	87	153	27
30	587	▲0.2	553	▲1.4	301	32	91	143	20
累計	8,433	—	8,138	—	3,849	489	1,237	2,574	284

第 2 図 事故種別救急出場件数



第 2 表 事故種別救急出場件数および搬送人員

事故種別	平成30年中		平成29年中		対前年比	
	出場件数 搬送人員	構成比	出場件数 搬送人員	構成比	増減数	増減率
急 病	301	51.3%	283	48.1%	18	0.1%
	281	50.8%	265	47.2%	16	0.1%
一般負傷	91	15.5%	87	14.8%	4	4.6%
	87	15.7%	83	14.9%	4	4.8%
交通事故	32	5.5%	38	6.5%	▲ 6	▲15.8%
	32	5.8%	40	7.1%	▲ 8	▲20.0%
労働災害	7	1.2%	5	0.9%	2	40.0%
	7	1.3%	4	0.7%	3	75.0%
自損行為	4	0.7%	7	1.2%	▲ 3	▲42.9%
	2	0.4%	4	0.7%	▲ 2	▲50.0%
火 災						
加 害			3	0.5%	▲ 3	▲100.0%
			3	0.5%	▲ 3	▲100.0%
運動競技			6	1.0%	▲ 6	▲100.0%
			6	1.1%	▲ 6	▲100.0%
水 難						
自然災害						
転 院	143	24.4%	153	26.0%	▲ 10	▲6.5%
	143	25.8%	153	27.3%	▲ 10	▲6.5%
その他	9	1.4%	6	1.0%	3	50.0%
	1	0.2%	3	0.5%	▲ 2	▲66.7%
合 計	587	100.0%	588	100.0%	▲ 1	▲0.2%
	553	100.0%	561	100.0%	▲ 8	▲1.4%

搬送人員 553 人のうち、高齢者が 433 人（78.3%）を占めている。また、事故種別では約 5 割（50.8%）が急病となっている。（第 3 表参照）

第 3 表 年齢区分別事故種別搬送人員の状況

（553 人）

事故種別 年齢区分	急病	交通事故	一般負傷	転院	その他	計
新生児						0 0.0%
乳幼児	7 2.5%		3 3.4%	1 0.7%		11 2.0%
少年	7 2.5%		3 3.4%	4 2.8%		14 2.5%
成人	38 13.5%	21 65.6%	21 24.2%	9 6.3%	6 60.0%	95 17.2%
高齢者	229 81.5%	11 34.4%	60 69.0%	129 90.2%	4 40.0%	433 78.3%
計	281 50.8%	32 5.8%	87 15.7%	143 25.9%	10 1.8%	553 100%

最少出場件数の 6 月（33 件）を指数 1 とした場合、1 月（68 件）が 2.1 で最多となる。事故種別でみると、急病は 5 月（38 件 12.6%）、一般負傷は 11 月（12 件 13.2%）、交通事故は 8・12 月（5 件 15.6%）に多く発生している。（第 4 表参照）

第 4 表 月別・事故種別救急出場件数

（587 件）

月別 種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
急病	31	24	20	22	38	13	30	24	17	29	26	27	301
一般	9	4	10	3	9	6	9	6	10	9	12	5	92
交通	1	2	0	4	3	2	3	5	2	4	1	5	32
その他	3	2	0	1	1	1	2	1	1	3	3	1	19
転院	24	10	13	11	12	11	8	11	8	7	15	13	143
計	68	42	43	41	63	33	52	47	38	52	57	51	587

一日の出場件数が 4 件以上となった日は 32 日、一日の最多出場件数は 7 件、また救急出場のなかった日は 78 日となっている。

曜日別では、火曜日の 77 件が最少出場件数で、これを指数 1 とした場合、最多出場件数は月曜日の 89 件で 1.16 となっている。（第 5 表参照）

第 5 表 曜日別救急出場件数

(587 件)

件数指数 \ 曜日	月	火	水	木	金	土	日	合計
出 場 件 数	89	77	84	84	88	79	86	587
最低を 1 とした指数	1.16	1.00	1.09	1.09	1.14	1.03	1.12	7.62
合計の平均を 1 とした指数	1.07	0.92	1.00	1.00	1.05	0.94	1.02	7.00

出場時間帯別に救急出場をみると、ピークは 8 時～14 時の 6 時間 262 件 (44.6%) であり、深夜・早朝にあたる 22 時～6 時の 8 時間では 66 件 (11.2%) の出場となっている。(第 6 表参照)

第 6 表 時間帯別・事故種別出場件数

(587 件)

種別 \ 時間	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他		計
											転院	その他	
0～2							2			15	1		18
2～4										13			13
4～6				1						9		1	11
6～8				1			9		1	23			34
8～10				5	1		14			38	28		86
10～12				6	1		19			29	33	1	89
12～14				6			16			39	26		87
14～16				4	5		13			32	16	4	74
16～18				4			8		2	30	19	1	64
18～20				2			4			33	9	1	49
20～22				1			5		1	26	5		38
22～24				2			1			14	6	1	24
計	0	0	0	32	7	0	91	0	4	301	143	9	587

事故種別ごとの町外居住者の搬送をみると、一般負傷 27 人 (31.0%) が多い。また、傷病者の事故発生場所別をみると、急病 227 人 (80.8%)、一般負傷 35 人 (40.2%) では住宅内での発生が多くなっている。また、一般負傷のうち、その他の場所 33 人 (37.9%) は、スキー場・ゴルフ場・農地・河原・山林等において発生したものである。(第 7 表・第 8 表参照)

第 7 表 町内・町外別搬送人員の状況

(553 人)

事故種別 住居区分	急 病	交通事故	一般負傷	転 院	その他	計
町 内 居 住 者	260 92.5%	14 43.8%	60 69.0%	136 95.1%	5 50.0%	475 85.9%
町 外 居 住 者	21 7.5%	18 56.2%	27 31.0%	7 4.9%	5 50.0%	78 14.1%
計	281 100.0%	32 100.0%	87 100.0%	143 100.0%	10 100.0%	553 100.0%

第 8 表 発生場所別搬送人員

(553 人)

発生場所 事故種別	住 宅	公衆出入場所	仕事場	道 路	その他	病院（転院）	計
急 病	227 80.8%	31 11.0%	1 0.4%	9 3.2%	13 4.6%		281 100.0%
交通事故	2 6.3%			29 90.6%	1 3.1%		32 100.0%
一般負傷	35 40.2%	12 13.8%		7 8.1%	33 37.9%		87 100.0%
その他	4 2.6%		4 2.6%	2 1.3%		143 93.5%	153 100.0%
計	268 48.5%	43 7.8%	5 0.9%	47 8.5%	47 8.5%	143 25.8%	553 100.0%

3. 医療機関別搬送人員の状況

医療機関に搬送された傷病者 553 人中、478 人（86.4%）が救急告示医療機関へ、残り 75 人（13.6%）が救急告示医療機関以外（三次医療機関含む）へ搬送されている。町内に収容された 312 人（56.4%）の医療機関別の状況は、久万高原町立病院 252 人（80.8%）、西本医院 35 人（11.2%）、みかわクリニック 19 人（6.1%）、となっている。町外医療機関に収容された 241 人（43.6%）のうち、転院搬送人員は 133 人で町外搬送人員の約 60%を占めている。また、主な転院先医療機関は、県立中央病院 31 人、松山赤十字病院 20 人、救命救急センター 19 人となっている。（第 9 表、第 3 図、第 4 図、第 10 表参照）

第 9 表 医療機関別搬送人員の状況

(553 人)

開設区分 告示区分	医 療 機 関						その他の場所		計
	国 立	公 立	公 的	私的病院	私的診療所	計	ドクターヘリ 消防中継 ヘリ中継	警察等	
救急告示	19 (19)	301 (49)	58 (58)	65 (65)	35	478 (191)			478 (191)
非告示		28 (28)		2 (2)	25	55 (30)	20		75 (30)
計	19 (19)	329 (77)	58 (58)	67 (67)	60 0	533 (221)			553 (221)

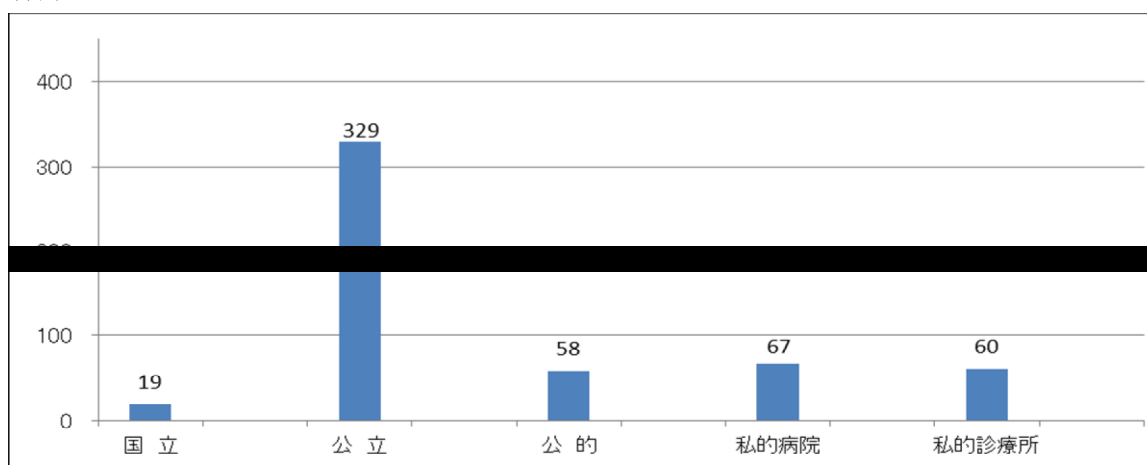
注 1. () は町外の医療機関に搬送された人員である

2. 一つの搬送事例につき、傷病者を二つ以上の医療機関へ転送した場合は、
収容された最終の医療機関について記載した

第 3 図 開設別収容状況

(件)

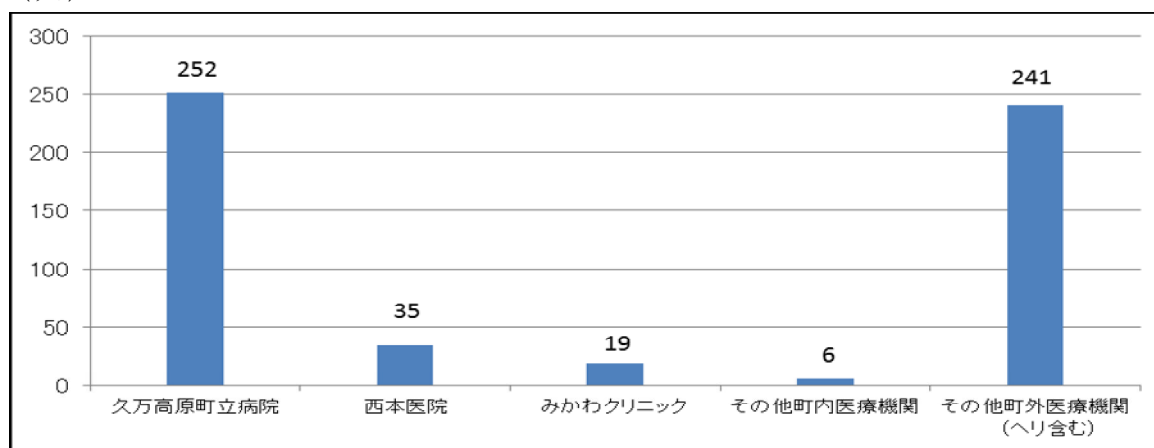
(533 人)



第 4 図 医療機関別収容人員の状況

(人)

(553 人)



第 10 表 医療機関別搬送人員一覧表

(553 人)

町内医療機関	医 療 機 関 名		開設	人員	内転院
	告 示	久万高原町立病院	公 立	252	9
		社団マリナ会西本医院	私 的	35	1
	非告示	みかわクリニック	私 的	19	
		うつのみや内科	私 的	5	
		吉村内科	私 的	1	
	合 計			312	10
町外医療機関	救 急 告 示	愛媛大学医学部附属病院	国 立	6	3
		国立病院機構愛媛医療センター	国 立	13	6
		愛媛県立中央病院	公 立	49	31
		松山赤十字病院	公 的	34	20
		済生会松山病院	公 的	24	17
		松山市民病院	私 的	17	11
		南松山病院	私 的	12	3
		愛媛生協病院	私 的	9	4
		平成脳神経外科病院	私 的	8	1
		奥島病院	私 的	7	3
		梶浦病院	私 的	6	5
		笠置記念病院	私 的	2	2
		野本記念病院	私 的	1	
		浦屋病院	私 的	1	
		渡辺病院	私 的	1	1
		松山記念病院	私 的	1	1
	合 計			191	108
	非 告 示	救命救急センター	公 立	28	19
		福井整形外科・麻酔科	私 的	1	1
		ばらのいずみクリニック	私 的	1	
	合 計			30	20
特 殊		ドクターヘリ	19	5	
		他消防機関（消防防災ヘリ）へ中継	1		
		久万高原警察署・その他			
総 計				553	143

4. 傷病程度別搬送人員の状況…高齢者の重症以上率が 18.9%

事故種別ごとに死亡と重症傷病者の合計割合をみると、全国では急病が 9.8%となっているが、久万高原町では 13.8%と高くなっている。

また、軽症率は全国で 48.5%となっているが、久万高原町では 29.3%となっている。(第 11 表参照)

第 11 表 事故種別傷病程度の状況

	久万高原町 平成30年中						(参考) 全国統計
	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計	平成29年中 速報値
急 病	14	25	119	96	28	282	3,686,563
	5.0%	8.9%	42.2%	34.0%	9.9%	100.0%	64.3%
交通事故		3	7	19	3	32	466,008
		9.4%	21.8%	59.4%	9.4%	100.0%	8.1%
一般負傷		15	36	29	6	86	883,150
		17.4%	41.9%	33.7%	7.0%	100.0%	15.4%
そ の 他	2	33	78	18	22	153	700,194
	1.3%	21.6%	50.9%	11.8%	14.4%	100.0%	12.2%
計	16	76	240	162	59	553	5,735,915
	2.9%	13.7%	43.4%	29.3%	10.7%	100.0%	100.0%

搬送人員 553 人を年齢区分別でみると、高齢者 433 人（78.3%）が約 8 割となっている。さらに、年齢区分別の傷病程度をみると、高齢者で中等症の割合が高くなっている。（第 12 表・第 13 表参照）

第 12 表 年齢区分別搬送人員の増減

区 分	新生児	乳幼児	少 年	成 人	高齢者	計
平成29年	0	14	18	124	405	561
平成30年	0	11	14	94	434	553
増 減	0	▲ 3	▲ 4	▲ 30	29	▲ 8
増減率	0.0%	-21.4%	-22.2%	-24.2%	7.2%	-1.4%

第 13 表 年齢区分別傷病程度の状況

年齢区分 傷病程度	新生児	乳幼児	少 年	成 人	高齢者	計
死 亡		1			15	16
		9.1%			3.5%	2.9%
重 症				9	67	76
				9.5%	15.5%	13.7%
中等症		1	6	27	206	240
		9.1%	42.9%	28.4%	47.5%	43.4%
軽 症		9	7	48	98	162
		81.8%	50.0%	50.5%	22.6%	29.3%
その他			1	11	47	59
			7.1%	11.6%	10.9%	10.7%
計		11	14	95	433	553
		100.0%	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%

第 14 表 不搬送（死亡分）の状況

種 別	急 病		自 損		一般負傷		その他 (安否確認)		計	
死 亡	10件	10人	2件	2人	1件	1人	1件	1人	14件	14人

※不搬送件数は 38 件となっている

5. 急病に係る疾病分類別搬送人員の状況

疾病分類別傷病程度別にみると、死亡の 9 人が心疾患に因るものであり、年齢区分別傷病程度別にみると、年齢区分が高くなるにつれ中等症以上の比率が高くなり、高齢者の中等症以上率は 62.5%と成人の中等症以上率（34.2%）の約 2 倍の数値となっている。（第 15 表、第 16 表、第 17 表参照）

第 15 表 急病に係る疾病分類別年齢区分別搬送人員の状況

年齢区分 疾病分類		新生児	乳幼児	少 年	成 人	高齢者	計
循環系	脳疾患				2 8.3%	22 91.7%	24 8.5%
	心疾患				2 7.1%	26 92.9%	28 10.0%
消化系					4 12.9%	27 87.1%	31 11.0%
呼吸系				2 6.3%	1 3.1%	29 90.6%	32 11.4%
精神系							0 0.0%
感覚系					2 50.0%	2 50.0%	4 1.4%
泌尿系					2 11.8%	15 88.2%	17 6.0%
新生物						2 100.0%	2 0.7%
その他 不明確			7 4.9%	5 3.5%	25 17.5%	106 74.1%	143 51.0%
計			7 2.5%	7 2.5%	38 13.5%	229 81.5%	281 100.0%

第 16 表 急病に係る疾病分類別傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度 疾病分類		死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	計
循環系	脳疾患	1 4.2%	10 41.7%	8 33.3%	5 20.8%		24 8.5%
	心疾患	9 32.1%	2 7.1%	11 39.4%	6 21.4%		28 10.0%
消化系			5 16.1%	17 54.9%	9 29.0%		31 11.0%
呼吸系		1 3.1%	4 12.5%	22 68.8%	5 15.6%		32 11.4%
精神系							0 0.0%
感覚系				1 25.0%	3 75.0%		4 1.4%
泌尿系			1 5.9%	13 76.5%	3 17.6%		17 6.0%
新生物				1 50.0%	1 50.0%		2 0.7%
その他 不明確		3 2.1%	3 2.1%	46 32.2%	64 44.8%	27 18.8%	143 51.0%
計		14 5.0%	25 8.9%	119 42.3%	96 34.2%	27 9.6%	281 100.0%

第 17 表 急病に係る年齢区分別傷病程度別搬送人員の状況

年齢区分 傷病程度	新生児	乳幼児	少 年	成 人	高齢者	計
死 亡		1 14.3%			13 5.7%	14 5.0%
重 症				3 7.9%	22 9.6%	25 8.9%
中等症		1 14.3%		10 26.3%	108 47.2%	119 42.3%
軽 症		5 71.4%	7 100.0%	21 55.3%	63 27.5%	96 34.2%
その他				4 10.5%	23 10.0%	27 9.6%
計		7 2.5%	7 2.5%	38 13.5%	229 81.5%	281 100.0%

6. 一般負傷における転倒事故の状況

一般負傷は 91 件発生し、87 人が搬送されている。その搬送者の中で転倒による搬送は 35 人（40.2%）で高齢者が 26 人（74.3%）、を占めている。また、発生場所で見ると、住宅が 15 件（42.9%）と約半数を占めており、時間帯では 7 時から 17 時と昼間の時間帯に約 8 割の転倒事故が発生している。

7. 現場到着所要時間別出場件数の状況…平均 14.6 分（転院除く）

救急出場件数 587 件のうち、転院搬送 143 件、出場途上辞退 1 件を除く現場到着した 443 件について現場到着所要時間をみると、現場到着に 10 分以上要したものが 253 件（57.1%）を占める。また、現場到着平均所要時間は 14.6 分（前年 14.0 分）となり、昨年と比べ 0.6 分延長している。（第 18 表参照）

平成 29 年中の全国統計をみると、現場到着所要時間は平均 8.6 分（前年 8.5 分）となっている。

第 18 表 現場到着所要時間別・事故種別出場件数（途中帰署除く）

現場到着 所要時間 事故種別	3分未満	3分～ 5分未満	5分～ 10分未満	10分～ 20分未満	20分以上	計	現場到着 平均時間
急 病	9	13	118	84	77	301	14.2
交 通	1	1	9	16	5	32	14.2
一般負傷	1	6	26	36	22	91	15.0
その他	0	0	6	7	6	19	19.7
計	11	20	159	143	110	443	14.6
転 院	21	41	63	15	3	143	5.3
総 計	32	61	222	158	113	586	12.3

8. 収容所要時間別搬送人員の状況…平均 51.5 分（転院除く）

搬送人員 553 人のうち、転院搬送 143 人を除く病院収容した 410 人についての収容所要時間別（覚知～医療機関などに引き継ぐまでに要した時間）の状況は、60 分以上～120 分未満が最も多く 143 人（34.9%）であった

収容平均所要時間は 51.6 分で昨年と比べ 1.5 分延長している。（前年 50.1 分）また、転院に係る収容平均所要時間は 51.9 分となっている。（前年 55.2 分）このように長時間の救急活動となる場合が多く、全体で 30 分以上の収容所要時間を要したものは 428 人（77.4%）となっている。（第 19 表参照）

平成 29 年中の全国統計をみると、収容所要時間は平均 39.3 分（前年 39.3 分）となっている。

第 19 表 収容所要時間別・事故種別搬送人員の状況

収容所要 時間 事故種別	10分 未満	10分～ 20分未満	20分～ 30分未満	30分～ 60分未満	60分～ 120分未満	120分 以上	計	収容平均 所要時間
急 病		21	64	99	91	6	281	50.2
交 通		2	4	14	11	1	32	55.0
一般負傷		10	15	24	36	2	87	53.3
その他			1	3	5	1	10	59.8
計	0	33	84	140	143	10	410	51.5
転 院		4	4	108	27		143	51.9
総 計	0	37	88	248	170	10	553	51.6

9. 救急出場時間の状況（覚知から帰署まで）・・・平均 1 時間 39 分

救急覚知から帰署時間までの全平均時間は 1 時間 39 分（対前年比 3 分延長）。

また、出場時間を町内町外別に見ると、町内に出場・搬送の平均時間は 1 時間 16 分（対前年比 2 分延長）。町外に出場・搬送の平均時間は 2 時間 18 分（対前年比 14 分延長）となった。（第 20 表参照）

第 20 表 救急出場時間の状況

	平成30年		平成29年	
総 出 場 件 数	587件		588件	
出 場 件 数	町内	町外	町内	町外
	367件	220件	333件	255件
総 出 場 時 間	969時間27分		937時間59分	
出 場 時 間	462時間28分	506時間59分	411時間40分	526時間19分
平 均 時 間	1時間16分	2時間18分	1時間14分	2時間4分
全 平 均 時 間	1時間39分		1時間36分	

第 21 表 救急隊員の行った応急処置状況

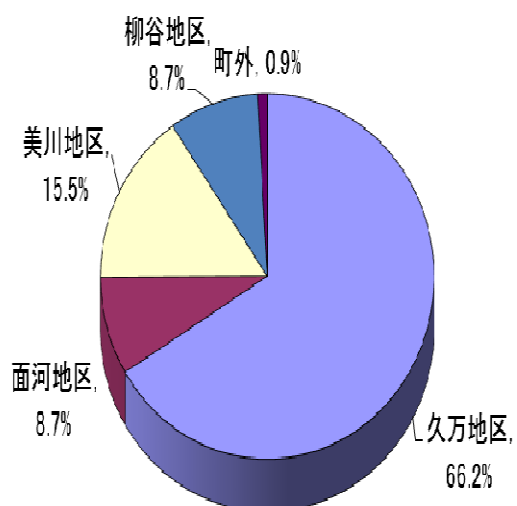
事 故 種 別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
応急処置対象人員	281	32	87	153	553
止 血	1	4	10	3	18
固 定	2	15	24	19	60
人 工 呼 吸	3				3
酸 素 吸 入	84	6	14	55	159
保 温	42	3	16	21	82
被 覆	2	13	22	6	43
胸 骨 圧 迫	2		1		3
心 肺 蘇 生	9			1	10
* うち自動式心マッサージ器	2			1	3
* 在宅療法継続					0
* ショックパンプ					0
* 血 圧 測 定	263	32	85	149	529
* 心音呼吸音聴取	34	9	7	8	58
* 血中酸素飽和度測定	270	32	85	150	537
* 心電図測定等	110	9	15	62	196
気 道 確 保	18			4	22
* うち経鼻エアウェイ	2				2
* うち喉頭鏡・鉗子等	1				1
◎ * うちラリングアルマスク等	6				6
◎ * うち気管挿管					0
* 除 細 動	1				1
◎ * 静 脈 路 確 保 CPA前	1		1		2
◎ * 静 脈 路 確 保 CPA後					0
◎ * 薬 剤 投 与 アドレナリン					0
◎ * 薬 剤 投 与 ブドウ糖					0
◎ * 血 糖 測 定					0
そ の 他	264	23	66	126	479
合 計	1,117	146	346	605	2,214
* 拡大された応急処置等	690	82	193	370	1,335
◎うち特定5項目	7	0	1	0	8

第 22 表 地区別救急出場件数の増減

地区 件数	久万高原町					町外	計
	全 体	久万地区	面河地区	美川地区	柳谷地区		
平成30年	582	389	51	91	51	5	587
	99.1%	66.2%	8.7%	15.5%	8.7%	0.9%	100.0%
うち転院を除く	439	263	51	82	43	5	444
	98.9%	59.2%	11.5%	18.5%	9.7%	1.1%	100.0%
平成29年	587	380	61	89	57	1	588
増 減	▲ 5	9	▲ 10	2	▲ 6	4	▲ 1
増 減 率	-0.9%	0.0	-16.4%	0.0	-10.5%	4.0%	-0.2%

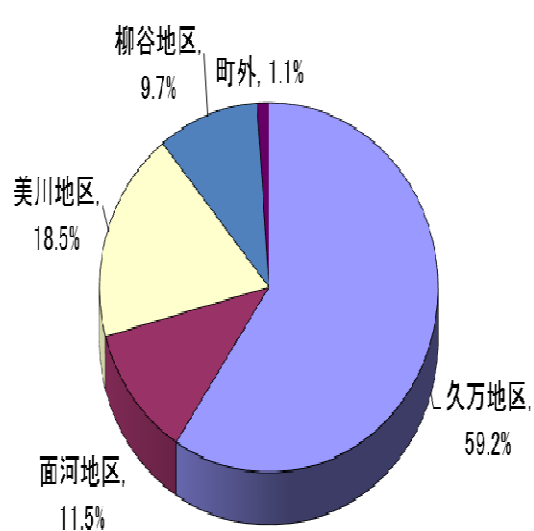
第 5 図 地区別救急出場件数

(587 件)



第 6 図 転院を除く地区別救急出場件数

(444 件)



第 23 表 ドクターヘリ運航状況

番号	月日	年齢	性別	種別	事故概要	程度	D r ヘリ	収容医療機関
1	1 / 3	80	男	一般	頭部外傷	死亡	愛媛県	久万高原警察署
2	2 / 7	62	男	労災	頭部多発割創	中等症	愛媛県	済生会松山病院
3	3 /15	86	女	転院	急性出血性胃潰瘍	中等症	愛媛県	救命センター
4	3 /17	68	女	一般	中足骨開放骨折	重症	愛媛県	救命センター
5	5 /12	24	男	一般	末梢神経損傷	中等症	愛媛県	救命センター
6	6 /24	67	女	交通	多発性外傷	重症	愛媛県	救命センター
7	8 / 3	70	女	交通	左鎖骨骨折	中等症	高知県	久万高原町町立病院
8	8 / 6	44	男	一般	血管迷走神経反射性失神	軽症	愛媛県	救命センター
9	8 / 7	69	男	一般	腓骨開放性粉碎骨折	重症	愛媛県	救命センター
10	8 / 8	65	男	転院	アナフィラキシーショック	重症	愛媛県	救命センター
11	8 /10	60	男	急病	穿孔性腹膜炎	重症	愛媛県	救命センター
12	8 /14	71	男	急病	脳梗塞	重症	愛媛県	救命センター
13	9 / 7	68	男	一般	アナフィラキシーショック	中等症	愛媛県	救命センター
14	10/ 7	85	男	一般	外傷性出血性ショック	重症	愛媛県	救命センター
15	10/13	74	女	一般	胸部外傷	中等症	愛媛県	愛媛大学医学部 付属病院
16	10/19	66	男	労災	頸椎損傷	重症	愛媛県	救命センター
17	11/16	88	女	転院	肥大型心筋症	軽症	愛媛県	救命センター
18	11/18	63	男	急病	脳梗塞	重症	愛媛県	救命センター
19	11/20	77	女	一般	大腿骨骨幹部骨折	重症	愛媛県	救命センター
20	12/27	82	女	転院	発作性心房細動	中等症	愛媛県	救命センター

※平成 29 年 2 月から運航開始

第 24 表 ドクターカー運行状況

番号	月日	年齢	性別	種別	事故概要	程度	収容医療機関
1	11/15	53	男	急病	急性冠症候群	重症	救命救急センター

第 25 表 上級救命講習修了者一覧

(平成 5 年からの累計)

区 分		合計	官公庁	消防団	女性防火 クラブ	会社 事業所	学校	各種団体
平成30年実施回数		1					1	
平成30年修了者数		3					3	
久 万 高 原 町	全 体	568	36	394	56	15	23	44
	久万地区	288		192	35	15	12	34
	面河地区	103	5	75	18		3	2
	美川地区	115	31	75			5	4
	柳谷地区	62		52	3		3	4
総実施回数		52	3	28	5	1	7	8
総修了者数		568	36	394	56	15	23	44

第 26 表 普通救命講習Ⅰ実施状況

(平成 30 年中)

番号	受講日	講習時間	受 講 団 体 名	受講者数	修了証 交付者数	派遣人員
1	1月 27日	3:00	防災士	3	3	1
2	2月 14日	3:00	防災士	1	1	1
3	4月 22日	3:00	久万小学校教員	17	7	※ 3
4	4月 25日	3:00	くま安心館	10	3	※ 2
5	5月 15日	3:00	上浮穴高校教職員	27	9	※ 3
6	5月 27日	3:00	町内教職員	11	1	※ 2
7	5月 28日	3:00	町内教職員	31	9	※ 4
8	5月 29日	3:00	町内教職員	20	6	※ 3
9	5月 31日	3:00	株式会社 石丸建設	11	2	※ 2
10	6月 4日	3:00	久万中学校	29	25	※ 4
11	6月 6日	3:00	久万中学校	37	33	※ 4
12	6月 7日	3:00	美川中学校	50	11	※ 6
13	6月 8日	3:00	フォレストワーカー養成コース	33	33	3
14	6月 20日	3:00	林業労働力確保支援センター	6	5	※ 2
15	7月 25日	3:00	介護支援施設しろもとグループ	18	2	※ 3
16	9月 1日	3:00	育和会 久万保育園	15	3	※ 3
17	9月 7日	3:00	育和会 久万保育園	18	0	※ 3
18	9月 8日	3:00	防災士	27	23	※ 3
19	9月 22日	3:00	防災士	6	6	2
合計		57:00	12団体	370	182	54

※は新規講習と再講習の実施団体（再講習の人数は含まれていない）

第 27 表 普通救命講習修了者一覧

(平成 5 年からの累計)

区 分		合計	官公庁	消防団	女性防火 クラブ	会社事業所	学校	各種団体
平成30年実施回数		19				5	10	4
平成30年修了者数		182				45	104	33
久 万 高 原 町	久万地区	4,369	350	215	114	806	2,151	733
	面河地区	390		142	33	6	159	50
	美川地区	957	7	69	126	51	682	22
	柳谷地区	364	6	36		49	218	55
※総実施回数		430	30	25	38	76	202	59
※総修了者数		6,080	363	462	273	912	3,210	860

注 1. 平成 19 年から修了証番号を 1 号から交付する

第 28 表 救命講習修了者一覧

(平成 5 年からの累計)

	合計	官公庁	消防団	女性防火 クラブ	会社 事業所	学校	各種団体
修了者数	6,648	399	856	329	927	3,233	904

第 29 表 再講習実施状況

受講日		講習 時間	対象団体名	対象 人員	講習内容	派遣人員
1	4月 22日	3:00	久万小学校 教員	10	普通救命講習 I と再講習	※ 3
2	4月 25日	3:00	くま安心館	7	普通救命講習 I と再講習	※ 2
3	5月 15日	3:00	上浮穴高校 教員	18	普通救命講習 I と再講習	※ 3
4	5月 27日	3:00	町内教職員	10	普通救命講習 I と再講習	※ 2
5	5月 27日	3:00	町内教職員	22	普通救命講習 I と再講習	※ 4
6	5月 29日	3:00	町内教職員	14	普通救命講習 I と再講習	※ 3
7	5月 31日	3:00	株式会社 石丸建設	9	普通救命講習 I と再講習	※ 2
8	6月 4日	3:00	久万中学校	4	普通救命講習 I と再講習	※ 4
9	6月 6日	3:00	久万中学校	4	普通救命講習 I と再講習	※ 4
10	6月 7日	3:00	美川中学校	39	普通救命講習 I と再講習	※ 6
11	6月 20日	3:00	林業労働力確保支援センター	1	普通救命講習 I と再講習	※ 2
12	7月 25日	3:00	介護支援施設しるもとグループ	16	普通救命講習 I と再講習	※ 3
13	8月 21日	7:20	町内教職員	3	上級救命講習と再講習	※ 2
14	9月 1日	3:00	育和会 久万保育園	12	普通救命講習 I と再講習	※ 3
15	9月 7日	3:00	育和会 久万保育園	18	普通救命講習 I と再講習	※ 4
16	9月 8日	3:00	防災士	14	普通救命講習 I と再講習	※ 5
合 計		52:20	11団体	201		52

※については新規講習と重複

第 30 表 救命入門コース等の講習実施状況

番号	受講日	講習時間	対象団体名	受講者数	講習内容	派遣人員
1	2月 23日	1:30	相ノ峰自治会	11	心肺蘇生法・AED	1
2	5月 9日	1:15	久万保健センター	9	心肺蘇生法・AED・異物除去	2
3	6月 5日	1:20	美川幼稚園・小学校・PTA・教員	32	心肺蘇生法・AED・水難救出	5
4	6月 9日	1:30	久万小学校・PTA・教員	87	心肺蘇生法・AED・搬送法	3
5	6月 10日	1:00	直瀬小学校・PTA・教員	17	心肺蘇生法・AED・水難救出	2
6	6月 16日	2:00	久万幼稚園・PTA・教員	71	心肺蘇生法・AED・異物除去	3
7	6月 24日	1:45	仕七川小学校・PTA・教員	21	心肺蘇生法・AED・水難救出	5
8	6月 26日	2:35	明神小学校・PTA・教員	27	心肺蘇生法・AED・水難救出	2
9	7月 11日	1:00	父二峰小学校・PTA	31	心肺蘇生法・AED・水難救出	3
10	7月 12日	1:30	面河小学校・PTA・教員	17	心肺蘇生法・AED・水難救出	2
11	12月 3日	1:30	民生児童委員協議会	71	心肺蘇生法・AED・外傷手当	6
12	12月 4日	1:30	老人保健施設あけぼの	14	心肺蘇生法・AED・異物除去	2
13	12月 5日	1:30	老人保健施設あけぼの	15	心肺蘇生法・AED・異物除去	2
14	12月 6日	1:30	老人保健施設あけぼの	13	心肺蘇生法・AED・異物除去	2
合 計		21:25	12団体	436		40

10. 応急手当・口頭指導の実施状況

(1) 応急手当の実施状況

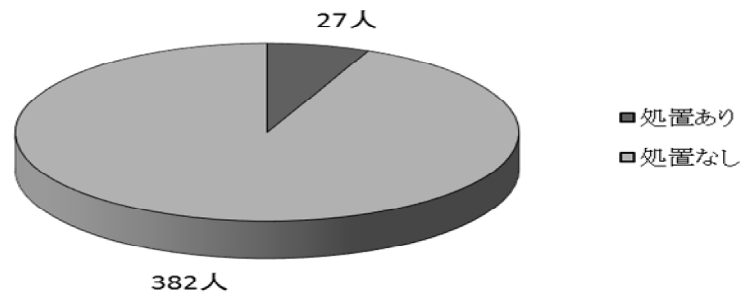
平成 30 年中の搬送人員 553 人のうち、転院搬送及びその他の 144 人を除く 409 人について、救急隊到着以前の応急手当の実施についてみると 27 人(6.6%)が応急手当を受けており、平成 29 年(405 人中 29 人・7.2%)と比較して減少している。

事故種別ごとの応急手当実施率を見ると、交通事故は 2 人(6.3%)と実施率は低い。同じ外傷系の一般負傷は 11 人(12.6%)と前年 16 人(19.3%)と比較し実施率は減少している。救急要請の多い急病については、13 人(4.6%)と低い実施率である。

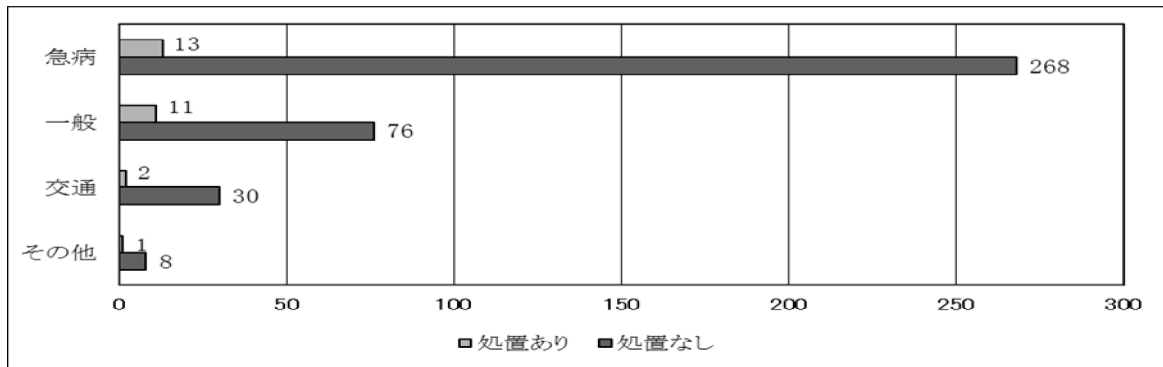
応急手当の内容をみると、止血 6 件、移動 6 件、胸骨圧迫 5 件、固定 3 件、保温 2 件、冷却 2 件、心肺蘇生法 1 件となっており、応急手当の実施者については家族が 51.9%を占めている。(第 6・7・8・9 図参照)

第 6 図 応急手当実施状況

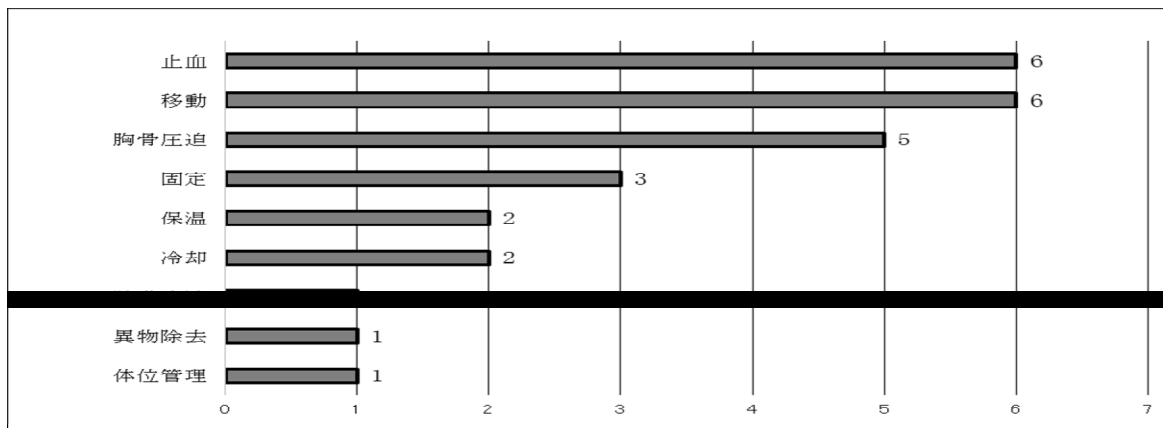
(409 人)



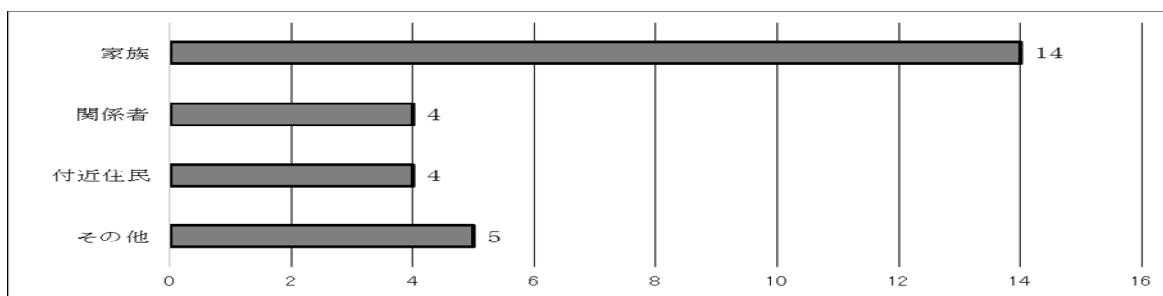
第 7 図 事故種別実施状況



第 8 図 応急手当内容



第 9 図 応急手当実施者



2) 口頭指導の状況について

久万高原町消防本部管内の救急現場での応急手当実施率は 6.6%であり、口頭指導を行ったが応急手当を実施していなかった件数は 6 件（無理解、その他）であった。（第 31 表参照）

第 31 表 平成 30 年中の口頭指導状況 （全指導回数 19 回 22 件）

	口 頭 指 導 の 項 目	指 導 件 数
1	胸骨圧迫・人工呼吸などに関するもの	15 件
2	止血・被覆などに関するもの	2 件
3	AED の準備などに関するもの	2 件
4	その他（異物除去・保温・体位管理）	3 件

※指導回数には複数項目の場合が存在するため回数と件数は一致しない

第 32 表 久万高原町内 AED 設置箇所状況 （総設置箇所 63 箇所）

久 万 地 区				面 河 地 区	
1	久万高原町役場(本庁)【寄贈】	24	松山市農協久万支所 【私設置】	1	面河体育館
2	久万B＆G海洋センター	25	うつのみや内科	2	面河小学校
3	養護老人ホーム「ささゆり荘」	26	高橋歯科医院	3	おもご高齢者生活支援ハウス
4	老人保健施設「あけぼの」	27	わたなべ歯科医院	4	若山集会所【寄贈】
5	久万高原町産業文化会館	28	I C ランド土居	5	相ノ峰公民館【私設置】
6	久万高原町教育委員会	29	道の駅「天空の郷さんさん」	6	面河診療所
7	久万小学校	30	道の駅防災センター	7	消防団多機能車両（里成）
8	直瀬小学校	31	久万カントリークラブ	美 川 地 区	
9	明神小学校	32	高原ゴルフクラブ	1	久万高原町役場（美川支所）
10	父二峰小学校	33	入野福祉館	2	美川小学校
11	畑野川小学校	34	農業公園アグリピア	3	仕七川小学校
12	久万中学校	35	大宝寺【私設置】	4	美川中学校
13	上浮穴高校【県設置】	36	久保建設【私設置】	5	岩屋寺 【私設置】
14	久万高原町立病院	37	石丸建設【私設置】	6	仕七川駐在所
15	父二峰診療所	38	くま安心館【寄贈】	7	美川中学校「若竹寮」
16	国民宿舎「古岩屋荘」	39	グループホーム「サマリア」【寄贈】	8	みかわクリニック
17	久万スキーランド【私設置】	40	グループホーム「メサイア」【寄贈】	9	小椋商店
18	ふるさと旅行村【寄贈】	41	久万ボクシングジム【私設置】	柳 谷 地 区	
19	畑野川歯科【県歯科医師会設置】	42	まちなか交流館	1	久万高原町役場(柳谷支所)
20	久万高原警察署			2	柳谷小学校
21	四国電力久万営業所			3	四国電力面河発電所
22	久万保育園			4	消防団多機能車両（落出）
23	伊予銀行久万支店 【私設置】			5	中津公民館

救 助 編



危険に立ち向かうオレンジの精鋭

救助活動体制の現状

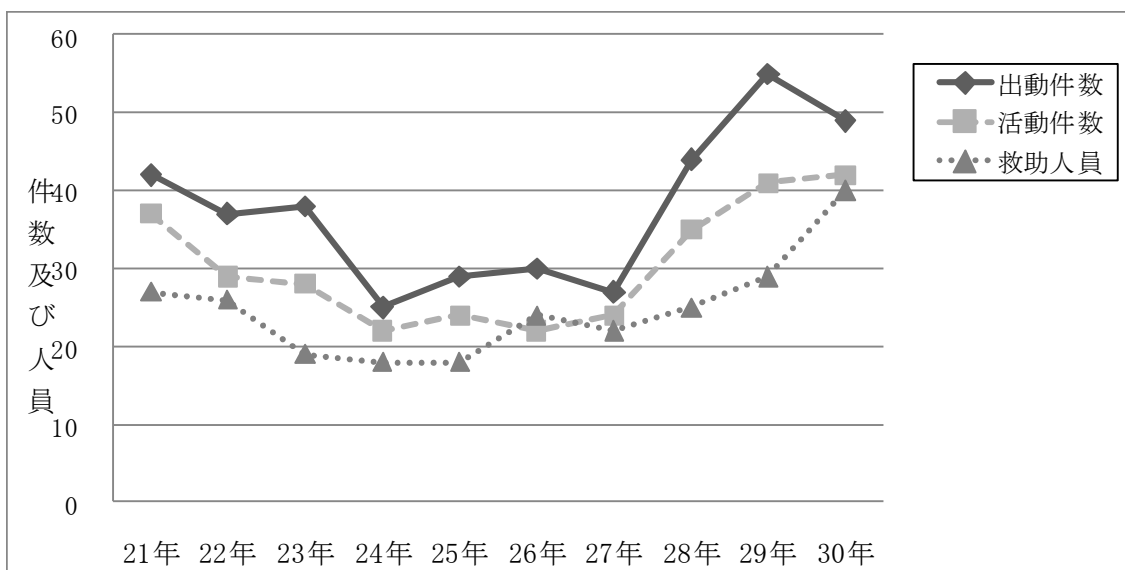
(1) 救助活動状況の推移

平成30年中における出動件数は49件、このうち活動件数は42件、救助人員は40人で、前年に比べて出動件数は6件の減少、救助人員は11人の増加となっている。

第1表 過去10年間の救助活動状況の推移

区 分 年 別	救 助 出 動 件 数		救 助 活 動 件 数		救 助 人 員	
	件数	増減率(%)	件数	増減率(%)	人員	増減率(%)
21 年	42	—	37	—	27	—
22 年	37	△11.9	29	△21.6	26	△3.7
23 年	38	2.7	28	3.5	19	△3.7
24 年	25	△34.2	22	△21.4	18	△5.3
25 年	29	16.0	24	9.0	18	—
26 年	30	3.4	22	△8.3	24	33.3
27 年	27	△10.0	24	9.1	22	△8.3
28 年	44	63.0	35	45.8	25	13.6
29 年	55	25.0	41	17.1	29	16
30 年	49	△8.9	42	2.4	40	37.9

第1図 救助出動状況と救助人員



(2) 事故種別活動状況

事故種別出動件数は、救急応援活動が15件（30.6%）、次いでドクターヘリ支援活動及が13件（26.5%）となっており、全体の約57%を占めている。ドクターヘリ支援については、平成29年2月から愛媛県ドクターヘリの運航開始に伴い、地上隊による支援活動が急増している。また、冬季の積雪時における搬送応援や、山林内での救急事案により救急応援活動件数が増加した。

第2表 事故種別状況

事故種別 件数 及び人員		火 災	交 通 事 故	機 械 事 故	建 物 事 故	防 災 ヘ リ 支 援	ヘ リ ド ク タ ー 支 援	救 急 応 援	捜 索 活 動	山 岳 事 故	そ の 他	合 計
出動	件 数	3	4	1	1	—	13	15	4	5	3	49
	構 成 比 (%)	6.0%	8.1%	2.0%	2.0%	—	26.5%	30.6%	8.1%	10.7%	6.0%	100%
活動	件 数	3	2	1	—	—	13	13	4	3	3	42
	構 成 比 (%)	7.1%	4.8%	2.4%	—	—	31.0%	31.0%	9.5%	7.1%	7.1%	100%
人員	人 員 数	—	2	1	—	—	13	13	4	4	3	40
	構 成 比 (%)	—	5.0%	2.5%	—	—	32.5%	32.5%	10.0%	10.0%	7.5%	100%
過去の 出 動	過去10年合計	53	42	11	2	16	27	71	43	79	24	368
	過去10年平均	5	4	1	1	2	3	7	4	8	2	37

(注)火災による出動・活動件数は、建物火災のみ計上。



(3) 救助出動人員及び活動人員の状況

出動人員及び活動人員数は救急搬送応援が最も多く、次いでドクターヘリ支援活動となっている。

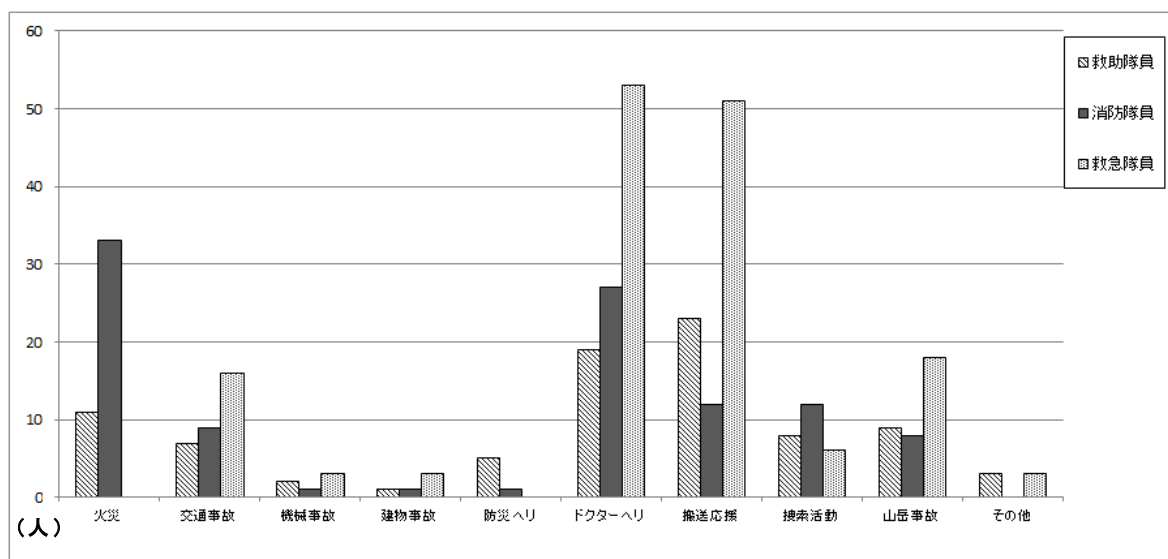
第3表 事故種別出動人員の状況

災害種別 件数及び人員		火災	交通事故	機械事故	建物事故	支防 災ヘリ 援	ドク ター ヘリ 支 援	搬 送 応 援	捜 索 活 動	山 岳 事 故	そ の 他	合 計
救助隊員	出動	11	7	2	—	—	17	25	8	16	7	93
	活動	11	7	2	—	—	16	23	8	10	7	84
消防隊員	出動	33	9	1	—	—	18	21	12	9	6	109
	活動	33	7	1	—	—	18	21	12	7	6	105
救急隊員	出動	—	16	3	—	—	44	45	6	18	6	138
	活動	—	16	3	—	—	44	45	6	3	6	123
合 計	出動	44	32	6	—	—	79	91	26	43	19	340
	活動	44	30	6	—	—	78	89	26	20	19	312

(注) ア. 各欄の上段は出動人員、下段は活動人員を示す。「出動人員」とは、救助活動を行うため出動したすべての人員をいう。

イ. 火災の従事人員は、現場に出動した救急・救助、消防吏員の数を計上。

第2図 事故種別出動人員比率



第 4 表 平成 30 年の主な救助活動

番号	種別	発生月	発生場所	事故概要及び活動概要	出動人員
					救助人員
1	搬送 応援	1 月	久万高原町 美川地区	山林内での転落事故事案。救急隊と共に搬送活動を実施。	10 人
					1 人
2	機械 事故	3 月	久万高原町 柳谷地区	管理機に足を挟まれた事故事案。救出後ドクターヘリにより搬送。	6 人
					1 人
3	捜索 活動	5 月	久万高原町 美川地区	不明者の捜索事案。消防団との連携活動を実施。	8 人
					1 人
4	山岳 事故	7 月	久万高原町 (皿ヶ峰)	登山者の滑落事故事案。防災ヘリとの連携活動を実施。	5 人
					1 人
5	搬送 応援	8 月	久万高原町 久万地区	山林内での機械による負傷事故事案。救出後ドクターヘリにより搬送。	7 人
					1 人
6	山岳 事故	10 月	石鎚山系 二の鎖付近	登山者の一般負傷による事故事案。警察、防災ヘリとの連携活動を実施。	21 人
					2 人
7	交通 事故	11 月	久万高原町 久万地区	車両横転による事故事案。挟まれ、閉じ込めはなし。油漏れ処理を実施。	7 人
					1 人

※49 件中の 7 件を抜粋。

※出動人員については消防本部・署の出動人員（消防隊・救急隊含む）のみ計上。

予 防 編

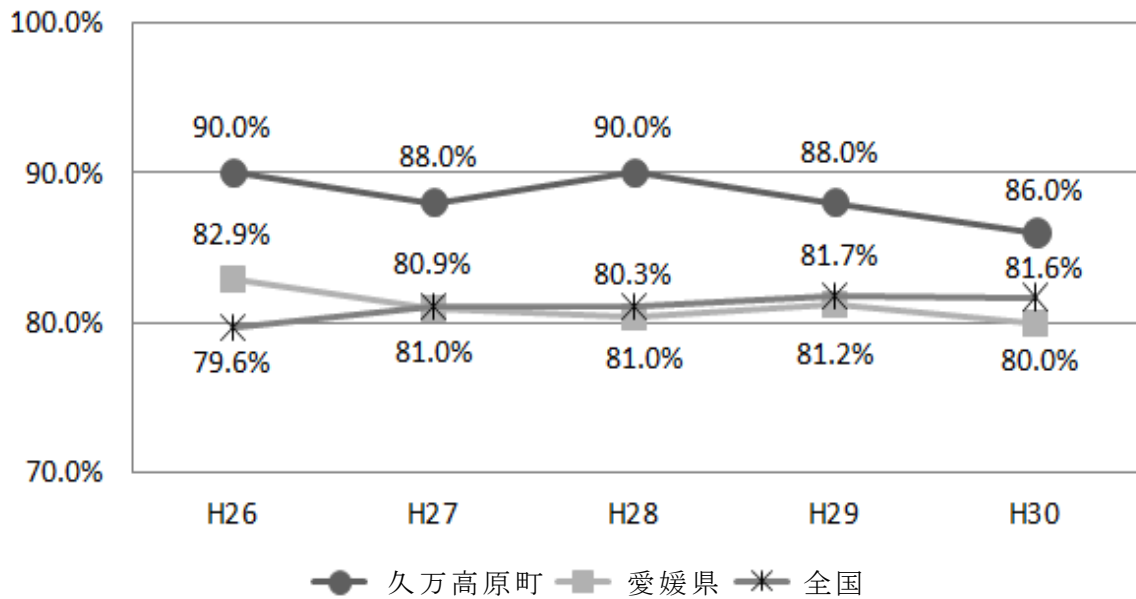


火災予防 私たちにできること！

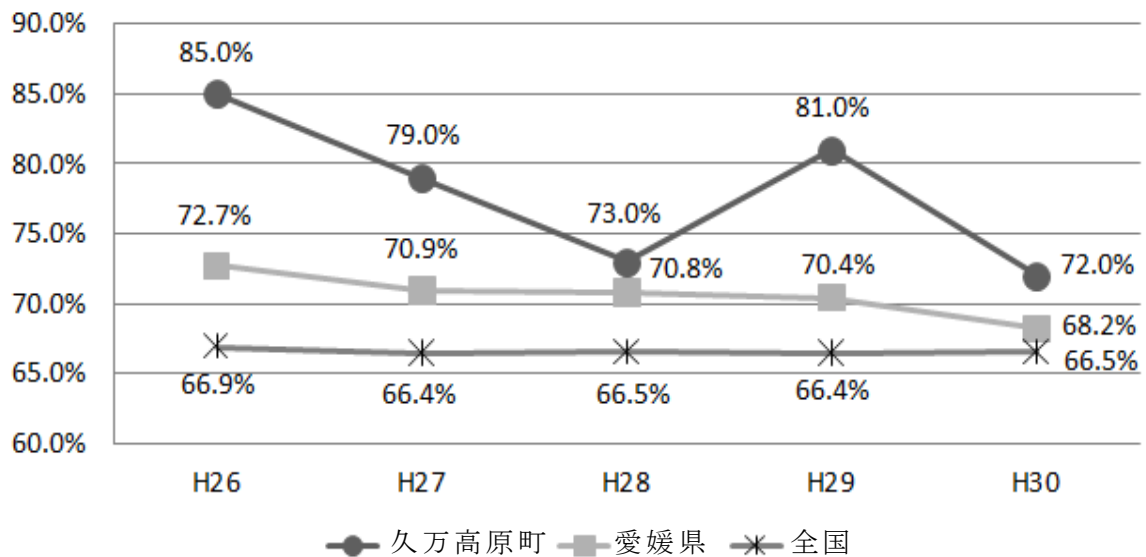
予防行政の現状

1. 住宅防火対策

第 1 図 住宅用火災警報器設置率の推移



第 2 図 条例適合率の推移



※ 第 1 図・第 2 図は標本調査のため、各数値は一定の誤差を含む。

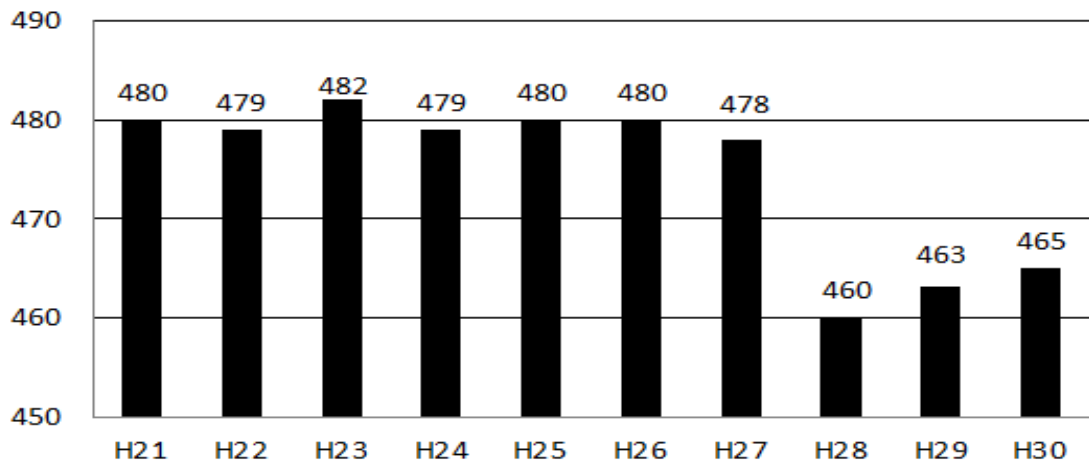
2. 防火対象物

第1表 用途・地区別防火対象物数

			久万地区			面河地区			美川地区			柳谷地区			合計		
			H29	H30	増減	H29	H30	増減	H29	H30	増減	H29	H30	増減	H29	H30	増減
1	イ	劇場・映画館・演芸場等	1	1	-			-			-			-	1	1	-
	ロ	公会堂・集会場	19	19	-	6	6	-	10	10	-	6	6	-	41	41	-
2	イ	キャバレー・カフェ等			-			-			-			-	-	-	-
	ロ	遊技場・ダンスホール	1	1	-			-			-			-	1	1	-
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗等			-			-			-			-	-	-	-
	ニ	カラオケボックス等			-			-			-			-	-	-	-
3	イ	待合・料亭の類			-			-			-			-	-	-	-
	ロ	飲食店	4	4	-			-			-			-	4	4	-
4		百貨店・マーケット・その他店舗 展示場	10	10	-	1	1	-			-			-	11	11	-
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所等	12	11	-1	5	5	-	2	2	-	1	1	-	20	19	-1
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	24	24	-	3	3	-	7	7	-	6	6	-	40	40	-
6	イ	病院・診療所又は助産所	5	5	-			-	1	1	-			-	6	6	-
	ロ	老人短期入所施設・養護老人ホーム等	9	9	-			-			-			-	9	9	-
	ハ	老人サービス施設等	6	6	-	1	1	-	1	1	-	1	1	-	9	9	-
	ニ	幼稚園・特別支援学校	4	4	-			-	2	2	-			-	6	6	-
7		小中高等学校・各種学校等	21	21	-			-	9	9	-	2	2	-	32	32	-
8		図書館・博物館・美術館	6	6	-	1	1	-			-			-	7	7	-
9	イ	蒸気浴場等			-			-			-			-	-	-	-
	ロ	公衆浴場	1	1	-			-			-			-	1	1	-
10		車両停車場			-			-			-			-	-	-	-
11		神社・寺院・教会	6	6	-			-	1	1	-			-	7	7	-
12	イ	工場・作業場	34	35	1	2	2	-	8	8	-	1	1	-	45	46	1
	ロ	映画スタジオ等			-			-			-			-	-	-	-
13	イ	自動車車庫・駐車場	3	3	-			-	1	1	-			-	4	4	-
	ロ	飛行場の格納庫			-			-			-			-	-	-	-
14		倉庫	34	35	1	3	3	-	1	1	-	2	2	-	40	41	1
15		前各項に該当しない事業場	86	86	-	2	2	-	9	9	-	18	18	-	115	115	-
16	イ	特定の複合用途対象物	32	33	1	4	4	-	8	8	-	3	3	-	47	48	1
	ロ	その他複合用途対象物	9	9	-	1	1	-	2	2	-			-	12	12	-
17		重要文化財・重要美術品	2	2	-			-	3	3	-			-	5	5	-
18		アーケード			-			-			-			-	-	-	-
19		市町村長の指定する山林			-			-			-			-	-	-	-
合 計			329	331	2	29	29	-	65	65	-	40	40	-	463	465	2

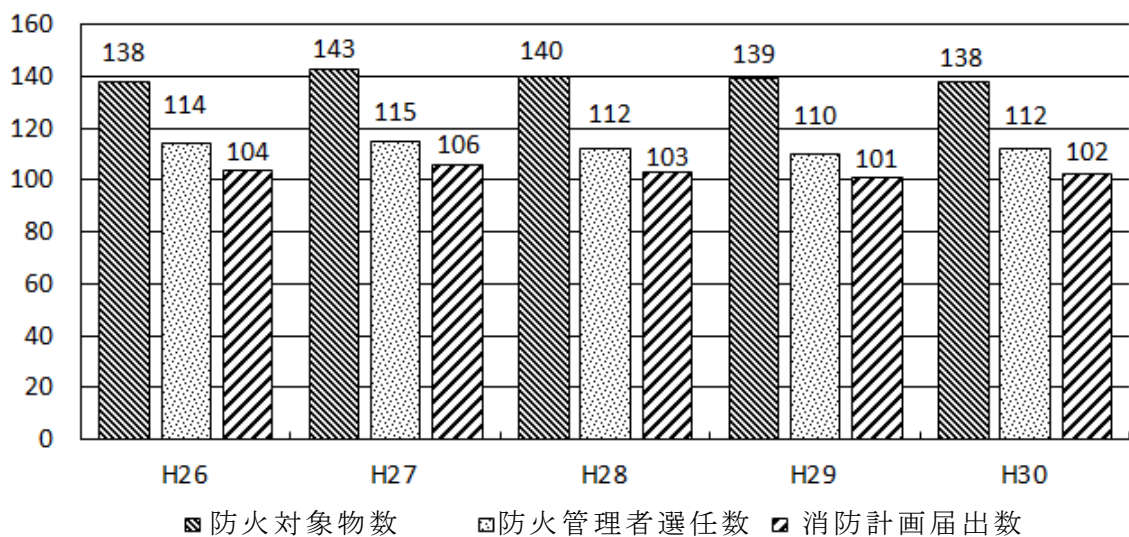
※消防法施行令別表第一に掲げる防火対象物のうち(1)項から(16)の3項までに掲げる防火対象物で延べ面積が150㎡以上のもの及び(17)項から(19)項に掲げる防火対象物が対象

第3図 防火対象物の推移

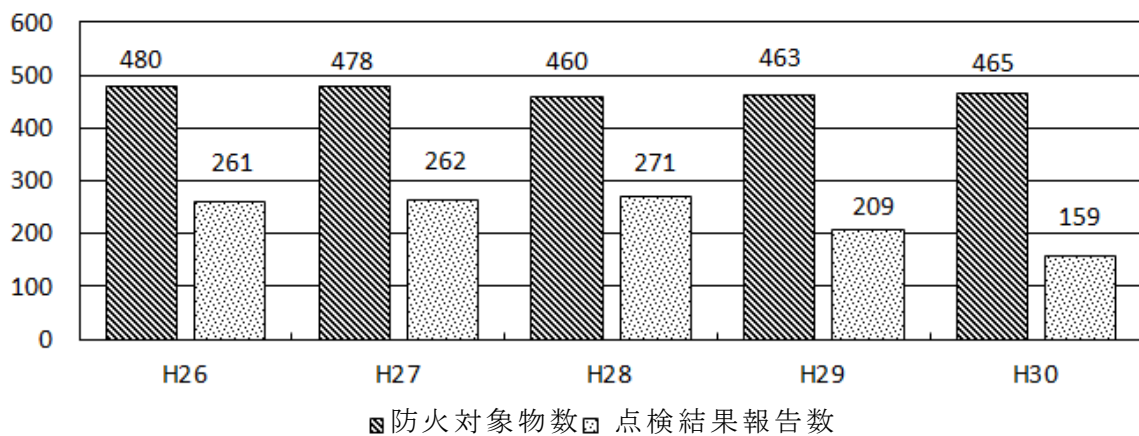


3. 防火管理実施

第4図 防火管理者選任・消防計画作成届出状況



第5図 消防用設備点検結果報告状況



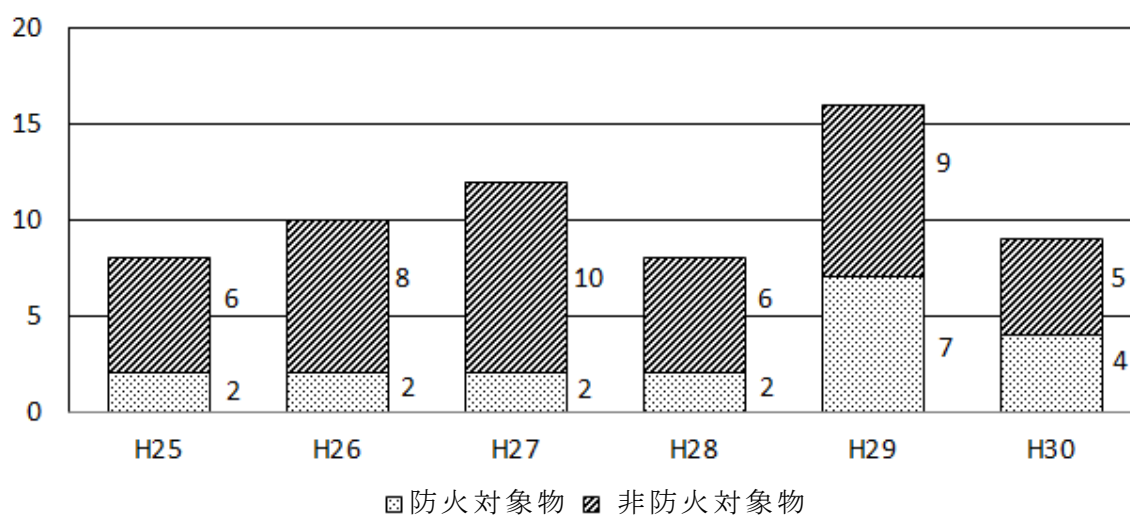
4. 立入検査実施

第2表 立入検査結果

	H26	H27	H28	H29	H30
対象物数	480	478	460	463	465
立入検査数	152	207	139	172	169
実施率	31.7%	43.3%	30.2%	37.1%	36.3%

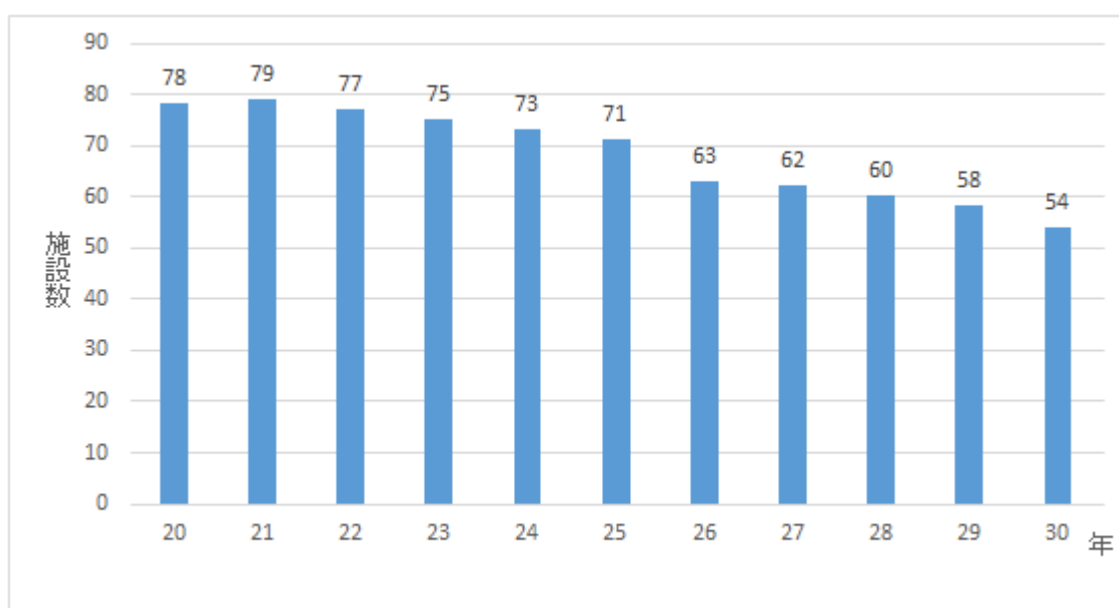
5. 消防同意

第6図 消防同意処理状況



6. 危険物

第7図 危険物施設数の推移



第 3 表 許可区分別・地区別危険物施設数 (平成 30 年 12 月末現在)

地区別		久万地区	面河地区	美川地区	柳谷地区	合 計
貯蔵所	屋 内	3		1		4
	屋外タンク	3		1		4
	屋内タンク	1				1
	地下タンク	8			1	9
	簡易タンク	2				2
	移動タンク	8		1		9
	屋 外					(▲ 4)
取扱所	給 油	1 2	1	5	1	1 9
	(自家用)	(4)	(1)	(1)	(0)	(6)
	一 般	5		1		6
合 計		4 2	1	9 (▲ 4)	2	5 4 (▲ 4)

() 内は前年比

高齢者の防火対策

第 1 表 久万高原町における高齢化率の推移

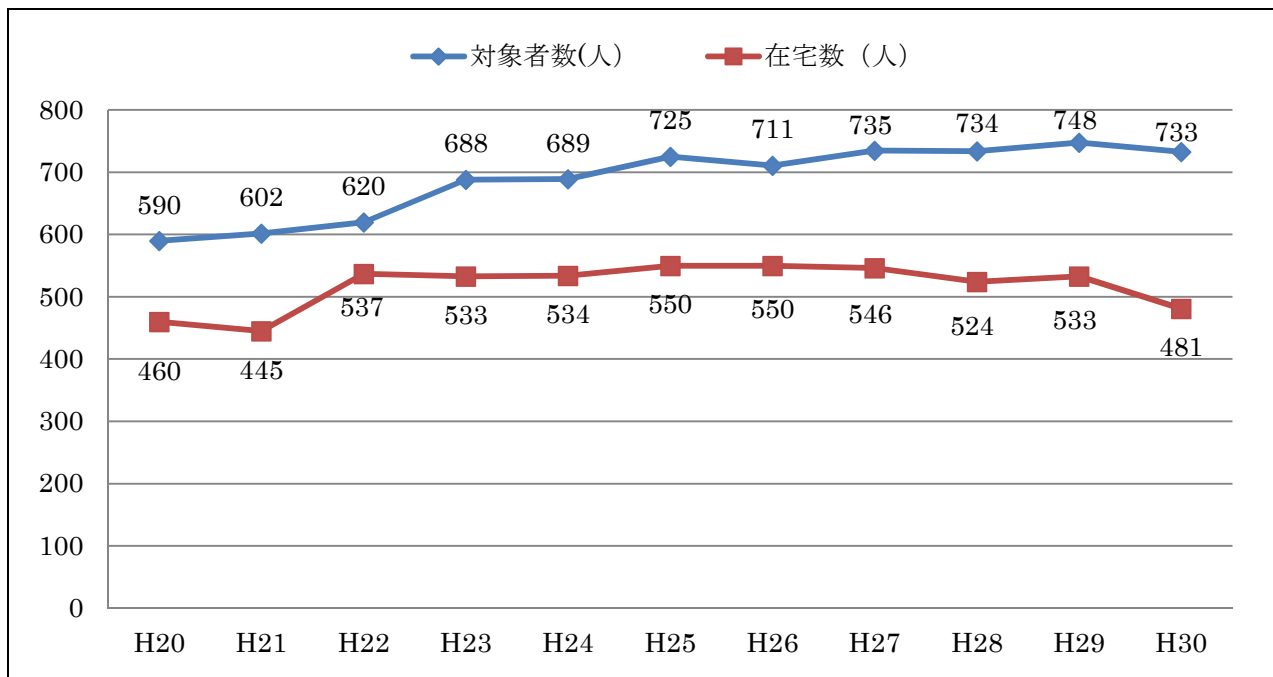
	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
久万高原町 総人口（人）	9,938	9,748	9,440	9,177	8,944	8,671	8,495
久万高原町 高齢者数(人)	4,307	4,262	4,207	4,179	4,123	4,046	3,994
久万高原町 高齢化率(%)	43.34	43.72	44.57	45.54	46.10	46.66	47.02
愛媛県 総人口（人）	1,447,287	1,438,612	1,428,946	1,420,283	1,410,463	1,399,453	1,387,133
愛媛県 高齢者数(人)	385,799	397,589	409,546	419,554	428,008	434,035	438,049
愛媛県 高齢化率(%)	26.66	27.64	28.66	29.54	30.35	31.01	31.58

※高齢者の年齢は 65 歳以上

防災診断

1. ひとり暮らしのお年寄り宅防災診断

第 1 図 対象者数及び在宅数の推移



※対象者は 65 歳以上のひとり暮らしのお年寄り

第 2 表 地区別訪問状況及び建物の状況

久万地区	対象者区分（人）			在宅数・在宅率（％）		建築構造		建築年（S56）	
	男性	女性	合計	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
平成 30 年	115	264	379	237	62.5	228	7	197	33
平成 29 年	121	267	388	266	68.6	257	9	212	48
平成 28 年	99	266	365	263	72.1	251	1	215	42
平成 27 年	97	267	364	269	73.9	257	3	221	39
平成 26 年	86	261	347	267	76.9	261	6	231	34

面河地区	対象者区分（人）			在宅数・在宅率（％）		建築構造		建築年（S56）	
	男性	女性	合計	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
平成 30 年	17	51	68	49	72.1	46	2	43	5
平成 29 年	17	52	69	45	65.2	45	0	43	2
平成 28 年	19	52	71	48	67.6	47	1	42	5
平成 27 年	18	55	73	52	71.2	50	0	46	4
平成 26 年	19	53	72	52	72.2	52	0	48	3

美川地区	対象者区分（人）			在宅数・在宅率（％）		建築構造		建築年（S56）	
	男性	女性	合計	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
平成 30 年	61	127	188	138	73.4	133	5	120	18
平成 29 年	64	127	191	145	75.9	141	4	127	17
平成 28 年	63	125	188	129	68.6	124	5	116	13
平成 27 年	61	127	188	146	77.7	142	4	128	18
平成 26 年	54	125	179	146	81.6	142	4	134	12

柳谷地区	対象者区分（人）			在宅数・在宅率（％）		建築構造		建築年（S56）	
	男性	女性	合計	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
平成 30 年	29	69	98	57	58.2	56	1	51	5
平成 29 年	28	72	100	77	77.0	75	2	71	6
平成 28 年	26	84	110	84	76.3	82	2	74	10
平成 27 年	24	86	110	79	71.8	76	3	71	8
平成 26 年	22	91	113	85	75.2	80	5	77	8

※各地区の在宅数・在宅率の拒否、対象外数は除く

※各地区の建築構造・建築年不明数は除く

第3表 非常時の通報手段及び消火器

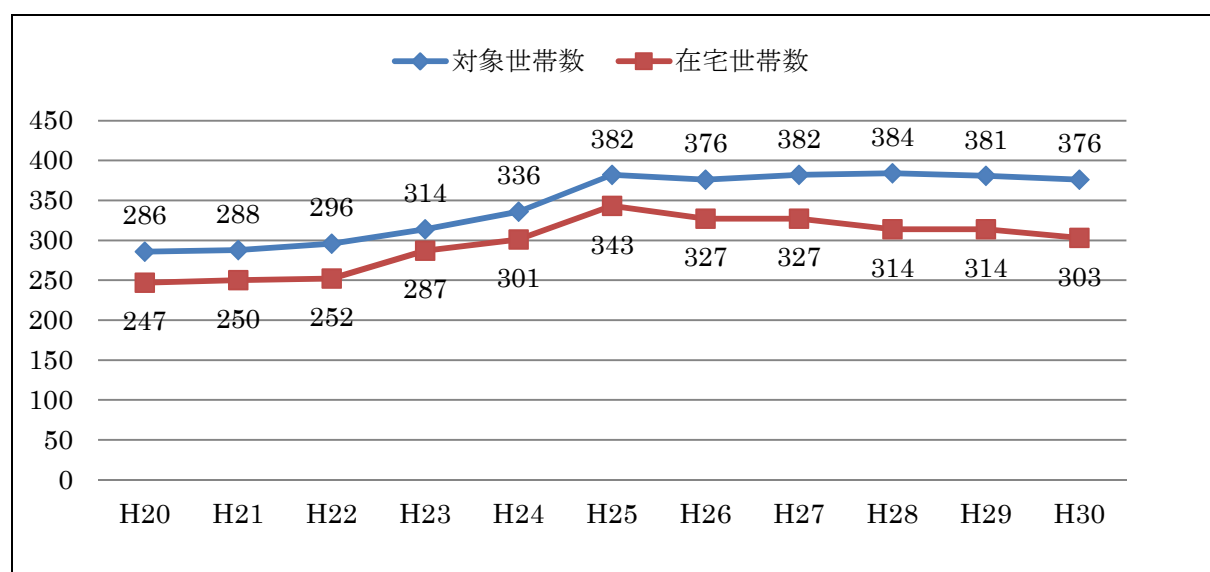
	通 報 手 段					消火器設置状況	
	固定電話	携帯電話	FAX	緊急通報システム	なし	設置あり（設置率）	不備あり（割合）
久万地区	218	129	16	14	0	147（62.0%）	66（44.9%）
面河地区	44	26	3	2	1	31（63.3%）	14（45.2%）
美川地区	134	78	6	8	1	94（68.1%）	55（58.5%）
柳谷地区	55	33	3	0	0	45（78.9%）	27（60.0%）
久万高原町	451	266	28	24	2	317（65.9%）	162（51.1%）

第4表 風呂かまど

	かまど種類		燃料種類			焚口位置		不備 件数
	純かまど	タル型	薪	灯油	兼用	屋内	屋外	
久万地区	22	45	28	7	32	53	14	3
面河地区	5	14	7	0	11	5	13	0
美川地区	53	23	56	5	15	10	66	5
柳谷地区	15	9	18	0	6	7	17	2
久万高原町	95	91	109	12	64	75	110	10

2. 後期高齢者夫婦世帯等防災診断

第2図 対象数及び在宅数の推移



※対象は75歳以上の夫婦世帯

第 5 表 地区別訪問状況及び建物状況

久 万 地 区	対象世帯数	在宅数・在宅率 (%)		建築構造		建築年 (S56)	
	久万地区	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
平成 30 年	197	156	79.2	153	3	130	26
平成 29 年	183	151	82.5	150	1	127	24
平成 28 年	185	150	81.1	150	—	128	22

面 河 地 区	対象世帯数	在宅数・在宅率 (%)		建築構造		建築年 (S56)	
	面河地区	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
平成 30 年	30	26	86.7	26	—	24	2
平成 29 年	37	28	75.7	28	—	26	2
平成 28 年	37	31	83.8	31	—	30	1

美 川 地 区	対象世帯数	在宅数・在宅率 (%)		建築構造		建築年 (S56)	
	美川地区	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
平成 30 年	100	80	80.0	78	2	69	11
平成 29 年	105	87	82.9	85	2	77	10
平成 28 年	104	90	86.5	88	2	75	15

柳 谷 地 区	対象世帯数	在宅数・在宅率 (%)		建築構造		建築年 (S56)	
	柳谷地区	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
平成 30 年	49	41	83.7	40	1	38	3
平成 29 年	56	48	85.7	47	1	44	4
平成 28 年	58	43	74.1	42	1	39	4

※各地区の在宅数・在宅率の拒否、対象外数は除く

※各地区の建築構造・建築年不明数は除く

第 6 表 非常時の通報手段及び消火器

	通 報 手 段					消火器設置状況	
	固定電話	携帯電話	FAX	緊急通報システム	なし	設置あり（設置率）	不備あり（割合）
久万地区	155	106	14	1	—	109（69.9%）	50（45.9%）
面河地区	26	19	1	—	—	19（73.1%）	16（84.2%）
美川地区	79	50	3	1	—	54（67.5%）	32（59.3%）
柳谷地区	41	32	3	—	—	31（75.6%）	18（58.1%）
久万高原町	301	207	21	2	—	213（70.3%）	116（54.5%）

第 7 表 風呂かまど

	かまど種類		燃料種類			焚口位置		不備 件数
	純かまど	タル型	薪	灯油	兼用	屋内	屋外	
久万地区	23	33	31	3	22	17	39	7
面河地区	10	5	13	1	1	7	8	1
美川地区	35	20	37	2	16	8	47	2
柳谷地区	22	10	25	—	7	9	23	1
久万高原町	90	68	106	6	46	41	117	11

消防現況 平成 30 年版

発行日 平成 31 年 3 月 1 日

発行 久万高原町消防本部

〒791-1207

愛媛県上浮穴郡久万高原町下野尻甲 33 番地

TEL (0892) 21-2411 FAX (0892) 21-2656

